

# NPO法人伊勢河崎まちづくり衆

代表者	高橋 徹
所在地	〒516-0009 三重県伊勢市河崎2丁目25番32号
設立年月日	1999年11月18日
URL	www.e-net.or.jp/user/machisyu/

## 【設立趣旨】

伊勢市河崎地域・伊勢河崎商人館（国指定登録有形文化財）

伊勢河崎の町を愛する人々と共に伊勢河崎のまちづくりに関する事業を行い、歴史と文化を活かしたまちづくりに寄与することを目的として、河崎及び勢田川を次の世代に伝承するため、河崎と拠点施設である伊勢河崎商人館（国指定登録有形文化財）を中心とした保存と活用を行っています。平成11年に設立、今年で10年を迎えます。

## 【沿革】

### ●河崎の歴史—経済と文化—

河崎は江戸時代から400年以上続いてきた問屋町で、伊勢の中心を流れる勢田川の中流域に位置しています。船を川沿いの蔵に横付けして直接荷物を運び込む形式で、米や酒・海産物などの物資が三重県や大阪など、特に伊勢湾対岸の愛知県などから多く運ばれていました。問屋は江戸時代から昭和30年代まで伊勢を訪れた参宮の方々の物資の供給を担っていました。河崎の町は文化を享受する側面も持ち、特に商人館として活用されている酒問屋は、代々の当主が和歌や絵画・お茶などに対する造詣が深く、文化のパトロン的な役割を担っていました。江戸時代、伊勢は全国からの参宮者を多く集めた、江戸と大阪の中間地点として、当時の通貨であった金貨（江戸を中心とした東国）と銀貨（大阪を中心とした西国）が同時に使用できる地域でした。日本で最初に使用された紙幣「山田羽書」が発行されたのも、河崎を中心とした外宮に位置する山田（商人の町）からです。

## 【活動目的】

●地域資源を生かした永く住み続けることができる「まちづくり」をめざして船運を活かして全国でも有数の問屋町として栄えた河崎でしたが、輸送形態や経済の変化によって、昭和30年前後から問屋町の機能が薄れていきました。そして昭和49年の水害による、河崎地内における勢田川の護岸工事が契機となり、町としての誇りが徐々に失われつつありました。その後、伝統的な町並みや暮らしを見直す取り組みがはじまり、地域の人々によって蔵や町家の保存と活用が行われていきます。平成11年には、行政との協働により、300年の歴史と600坪の敷地を有する酒問屋の保存と活用が決定し、平成14年8月「伊勢河崎商人館」が開館しました。平成18年からは指定管理者制度の導入となり、現在も運営管理を行っています。「伊勢河崎商人館」の運営を中心に、永く住み続けることができる「まちづくり」をめざし、河崎の地域資源の発掘と展示などを通じての活動を行っています。

## 【活動内容】

3つの目標（①歴史と地域資源を生かしたまちづくり②快適な住環境づくり③住民主体の自治まちづくり）を達成するために、戦略として①については勢田川を生かしたまちづくり・歴史的な町並みをいかしたまちづくり・商いの町を継承するまちづくり、②については災害に強いまちづくり・衛生的なまちづくり・安全で快適なまちづくり、③についてはまちづくりの計画と実践・まちづくりの情報収集と発信・まちづくりコミュニティの醸成を行っています。具体的には、伊勢河崎商人館の運営管理・河崎川の駅の運営管理・空家や空蔵を活用する仲人事業の実施・暮らし体験河崎南町の家の運営管理などを実施しています。特に文化庁の文化財活用モデルとして行った学生学芸員の地域資源の調査・研究・展示の事業は、河崎を知り、理解するための重要な活動として現在も取り組んでおります。



伊勢河崎商人館 学生学芸員 展示準備

## 【活動上の課題と今後の展望】

NPO法人伊勢河崎まちづくり衆が運営する、河崎のまちづくり拠点施設としての「伊勢河崎商人館」を核として、河崎の住民の方々の連携を深めるため、絆づくりの環境整備を推進すると共に、河崎との関連地域の交流をめざしています。交流空間活用のためのモデルプランを大学との協働も視野に入れて作成し、社会実験として、伊勢河崎商人館にある商人蔵の



大学との協働による古文書調査

マとした事業を進めています。地域に居住する人々が、ふれ合いを深めることにより、絆を復活させ、町がもつコミュニティの再生を推し進める事により、災害時や一人住まいの高齢者が生き生きと生活できる安全で安心な地域の資質づくりに貢献したい。



景観ワークショップ

## 【活動実績】

- 平成11年11月 河崎蔵くら寄席の開催（以後年に2回開催）
- 平成12年 5月 河崎の世古をいかしたまちづくり事業
- 平成13年 5月 第1回「河崎商人市」の開催（以後年に1回から2回開催）
- 平成14年 8月 伊勢河崎商人館の開館
- 9月 第1回「伊勢のだいどこ市」の開催（以後毎月1回開催）
- 12月 まちづくりフォーラム「勢田川・伊勢湾をめぐる海の交流ロマン」
- 平成15年 7月 「河崎・川の駅」開設
- 8月 「新・蔵くら談義」（まちづくりフォーラム）の開催（以後毎年開催）
- 11月 「みなとまちづくり談義」の開催
- 平成16年 3月 観光交流体験イベント「船参宮・春のにぎわい」
- 6月 河崎まちなみ館企画展示「伊勢のサイダーとラムネ」の開催
- 7月 商人蔵ミニギャラリー開設（以後毎月替わりで開催）
- 8月～ 「歴史的まちなみ空町家・空土蔵」再生活用事業（国土交通省全国都市再生モデル調査）
- 平成17年 1月 木造船「みずき」就航（平成16年に建造）
- 1月 「河崎まちづくりワークショップ」（各地区4回開催）
- 2月 河崎アートスクールの開催
- 8月 「新・蔵くら談義Ⅳ」の開催（テーマ 自律と自立をめざすまちづくり）
- 11月～ 「景観形成ガイドライン」ワークショップの開催（町並み環境整備事業）
- 平成18年 1月 「まちづくり懇談会」の開催（河崎3箇所）
- 2月 「河崎景観フォーラム」の開催
- 8月～ 地域と大学の連携により育てる「河崎まちづくり学生学芸員」構想（文化庁文化財活用モデル事業）
- 12月～ 河崎まちなみ館企画展示「伊勢河崎の酒問屋—伊勢河崎をめぐる交易Ⅱ—」
- 平成19年 2月 フォーラム「伊勢河崎の酒問屋」の開催
- 8月～ 大阪市立大学地理学科「河崎調査」
- 9月 「第30回全国町並みゼミ伊勢大会」の開催（テーマ 伝えよう心とわたちのまちなみ文化 参加者700名）
- 12月～ 河崎まちなみ館企画展示「商家の蔵書—問屋の主 和歌を詠む—」
- 平成20年1月 「河崎井戸端会議」の開催
- 3月 「新・蔵くら談義Ⅵ」の開催（テーマ 河崎学）



河崎商人市



だいどこ市のふるまい



蔵くら談義



子供手作り体験教室